

## 高等工科大学3年生が母校を訪問 やりがいや目標伝える



自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・菊池雅也1等空尉）は1月9日（火）、掛川市立北中学校において陸上自衛隊高等工科大学生徒の母校訪問を行った。

これは、長期休暇を利用して同校生徒が母校を訪問し教職員や後輩に高等工科大学の生活や、やりがいなどを伝え自衛隊に対する理解と認識を深めてもらうと実施しているもの。

今回、令和3年春に入校した藤岡大翔生徒が、掛川市担当広報官の箕輪勝政1等空曹とともに母校を訪れた。

当時の藤岡生徒を知る村田恵子教諭と八木智彦教諭と面談し、在校当時の思い出話などに花が咲いた。

和やかな雰囲気の中、高等工科大学での生活などについても説明し、教諭から「3年生になり、どのような変化がありましたか」と問われると、藤岡生徒は「最上級生になり、勉強も訓練も頑張っているのでもっとも充実しています」と自信に満ちた笑顔を見せた。



教諭は「昨年より、さらに心も身体も一回り大きく成長し、堂々とした態度が印象的で驚いた。希望の職種であるサイバー・情報系の職種に就けるよう頑張ってください。ぜひまた母校を訪れて、さらに成長した姿を見せてほしい」と嬉しそうに語った。

袋井所は、今後も入隊者と緊密に連携し母校訪問などを積極的に実施して、学校関係者の自衛隊に対する認識と理解の向上に全力を尽くしていく。

## 「具体的にイメージができた」 空自入隊予定者が静浜基地を見学



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・武田恭一1等空佐）は1月24日（水）、航空自衛隊静浜基地（焼津市）において空自入隊予定者の基地見学を行った。

これは、航空自衛隊の特性や勤務環境について理解を深めてもらうとともに、不安の払拭を図り入隊への意欲を向上する目的で実施したもの。県内の入隊予定者12人と保護者6人が参加した。

基地見学では、まず基地広報班の隊員が航空自衛隊や同基地の概要説明を行った。

その後、同基地で働く通信、整備、衛生といった各職種の隊員がそれぞれの仕事や特性などを紹介するとともに、気象隊事務室、飛行場勤務隊事務室、管制塔の施設見学を行い、実際の職場環境を確認した。参加者は入隊後に就きたい職種の参考にするとともに、現場で働くイメージを膨らませた。

午後は、パイロットの教育に使われている航空機や、基地内の消火活動を行う消防車両等を見学し、実際に機体や車両の装備品に触れながら、操縦や使い方を隊員に質問した。

最後は隊員との懇談の時間が設けられ、特にパイロット志望の入隊予定者は、同基地でパイロットの教育を受けている隊員に熱心に質問を投げかけていた。

見学終了後、参加者からは「詳しい職種の説明を聞いて自分の希望職種の具体的なイメージができた」「入隊後の訓練に関する説明も聞くことができ、安心できた」等の声が聞かれ、見学を通じて入隊意欲が向上した様子だった。

静岡地本は、今後も入隊予定者に基地等の研修を行い、入隊に対する不安の払拭を図っていく。

